Short Note (短 報)

日本からの亜種チョウセンオオルリ
Cyanoptila cyanomelana cumatilis の確実な初記録

茂田 良光*

The First Authentic Record of Chinese Blue-and-white Flycatcher
Cyanoptila cyanomelana cumatilis for Japan

Yoshimitsu Shigeta*

Abstract. Two Chinese Blue-and-white Flycatchers *Cyanoptila cyanomelana cumatilis*, an adult male and a first winter male, were banded on Kuroshima, Mishima-mura, Kagoshima-gun, Kagoshima Prefecture (30° 50' N, 129° 56' E) on 27 and 28 September 1997, respectively. This is the first authentic record for this subspecies of Blue-and-white Flycatcher *Cyanoptila cyanomelana* for Japan. The birds were probably migrants on their way to their wintering area. I showed the photos of the two birds, with the photos of *C. c. cumatilis* captured on China mainland and *C. c. cyanomelana* from Honshu, Japan for comparative identification.

Key words: Chinese Blue-and-white Flycatcher *Cyanoptila cyanomelana cumatilis*, First record, Japanese Blue-and-white Flycatcher *C. c. cyanomelana*, Kuroshima in Kagoshima.

キーワード: 亜種チョウセンオオルリ, 初記録, 亜種オオルリ, 鹿児島県黒島.

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* は夏鳥としてアジア北東部のアムール, ウスリー, 中国東部から朝鮮半島, および南千島, 日本で繁殖し, 海南島, 台湾, フィリピン, ボルネオ, インドシナ, マレーシアで越冬する (Dement'ev & Gladkov 1954, Vaurie 1959, ネチャエフ・藤巻 1994)。中国大陸で繁殖する亜種チョウセンオオルリ *C. c. cumatilis* と南千島, 日本, 朝鮮半島で繁殖する基亜種オオルリ *C. c. cyanomelana* の2亜種に分けられ (山階 1941, Dement'ev & Gladkov 1954, Vaurie 1959, ネチャエフ・藤巻 1994), 日本からは亜種オオルリだけが知られている (Ornithological Society of Japan 2000)。

筆者は1997年9月に鹿児島県の離島での標識調査中に同所で亜種チョウセンオオルリと考えられる2個体を標識放鳥した。その後, 1999年6~7月に中国遼寧省, 同年7月に黒竜江省で亜種チョウセンオオルリを観察し, 雌雄の成鳥と第1回冬羽の個体を標識放鳥する機会があり, 鹿児島県の2個体が亜種チョウセンオオルリであることを確認できたので, 以下に報告する。

Received 27 July 2002, Revised 28 February 2003, Accepted 3 March 2003.

* 山階鳥類研究所標識研究室, 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115.

* Bird Migration Research Center, Yamashina Institute for Ornithology, Konoyama 115, Abiko, Chiba 270-1145, Japan.

Fig. 1. Location of Kuroshima, Mishima-mura, Kagoshima-gun, Kagoshima Prefecture ($30^{\circ}50'N$, $129^{\circ}56'E$).

今回の2羽は、いずれも鹿児島県鹿児島郡三島村黒島中里（北緯 $30^{\circ}50'N$ 、東経 $129^{\circ}56'E$ 、標高 450 m, Fig. 1）の林道沿いの林縁で標識調査中に捕獲された。捕獲には、30 mm メッシュの霞網（12 m 5枚/6 m 2枚）を用いた。第1個体（足環番号 2H-69319）は1997年9月27日の午前9時に捕獲された。頭頸部と背、初列風切・次列風切・三列風切が青い雄成鳥で、基亜種オオルリの雄成鳥に類似しているが、翼と尾を含む上面の青色部がずっと淡色で緑色味を帯び、基亜種と異なり後頸部に紫色味はなかった。顔から胸にかけての黒色部が淡く、青緑色の光沢があった（Fig. 2a-c）。鎖骨間の脂肪は認められなかった。各部の測定値を Table 1 に示した。第2個体（足環番号 2H-69338）は、同年9月28日の午前11時に捕獲されたもので、頭頸部、背、胸が暗褐色で初列風切・次列風切・三列風切が幼羽であったため雄・第1回冬羽と同定された。この個体は翼と腰・上尾筒・尾羽の青色は、第1個体より淡いが、同様に緑色を帯び、基亜種オオルリの雄・第1回冬羽の個体に比べて青色はずっと淡かった（Fig. 2）。鎖骨間にわずかに脂肪が認められた。各部の測定値は Table 1 に示した。両個体の各部の測定値は、体重を除いて成鳥は第1回冬羽の個体より大きかった。

捕獲された2個体は、亜種チョウセンオオルリの可能性があると考えられたので抜けた体羽と風切の数枚を持ち帰り、山階鳥類研究所の標本との比較を試みたが、同研究所の所蔵標本には、日本および朝鮮半島と済州島を含む基亜種オオルリの標本だけで、亜種チョウセンオオルリの標本は収蔵されていなかった。しかし、持ち帰った2個体の数枚の青い羽毛は、基亜種より淡色であることは明らかであった。

筆者は、中国遼寧省鳳城県賽馬において1999年6月29日から7月2日に亜種チョウセンオオルリの雄成鳥3個体、雌成鳥2個体、雄の幼羽から第1回冬羽へ換羽中の1個体の計6個体を標識放鳥することができた。また、同年7月5～8日に中国黒竜江省尚志市で亜種チョウセン

Table 1. Measurements of Chinese Blue-and-white Flycatcher *Cyanoptila cyanomelana cumatilis* banded on Kuroshima, Mishima-mura, Kagoshima Prefecture (in mm).

Band No.	Sex/Age	Maximum wing length	Tail	Tarsus	Exposed culmen	Total culmen	Total length	Wing span	Body weight (g)
2H-69319	♂/Adult	94.0	59.1	15.9	12.7	14.5	160	264	19.3
2H-69338	♂/1st Winter	91.6	58.2	15.2	10.0	12.7	153	255	20.6

オオルリの雌雄成鳥を双眼鏡と望遠鏡で観察する機会があった。遼寧省では親鳥が4雛を育雛中の1巣を発見し、同地における亜種チョウセンオオルリの繁殖を確認した。遼寧省と黒竜江省で観察した亜種チョウセンオオルリの羽色には違いは認められなかった。鹿児島県の黒島で標識放鳥した2個体は、これらの亜種チョウセンオオルリの羽色と一致していたので、亜種チョウセンオオルリに相違ないと考えられた (Fig. 2)。2個体とも冬羽への換羽を終了し、羽毛に磨耗はなく、飼われた形跡は認められなかった。

亜種チョウセンオオルリは、Thayer & Bangs (1909) により中国河北省を基産地とし、1907年5月14日に採集された雄成鳥をタイプ標本にしてオオルリとは別種 *C. cumatilis* として記載された。その特徴はオオルリ雄成鳥に類似するが、“Forehead and crown bright cobalt blue, as are also the shoulders; rest of upper parts verditer blue, …throat and chest dull dark verditer blue separated from the white of abdomen and under tail coverts…” (Thayer & Bangs 1909)” であることにより、雄の羽色は異なっている。チョウセンオオルリの雌成鳥はオオルリ雌成鳥と酷似し、喉があまり白くないことでのみ異なる (Thayer & Bangs 1909)。筆者の調査では、オオルリとチョウセンオオルリには翼式と測定値に違いは見出せなかった。しかし、雄のチョウセンオオルリの羽色は、後頸と背に紫色を帯びることではなく、上面の青色が緑色を帯び、喉に緑色光沢があることでオオルリとは明らかに異なっていた。

チョウセンオオルリはその後、Hartert & Steinbacher (1934) により亜種チョウセンオオルリ *Muscicapa cyanomelana cumatilis* としてオオルリの亜種に含められ、ロシアのウラジオストク付近から1922年に記載された亜種コマオオルリ *M. c. intermedia* は亜種チョウセンオオルリのシノニムとされた。さらに靫山 (1928) が八丈島から迷鳥として記載したオオルリモドキ *Cyanoptila caeruleiceps* が基亜種オオルリ *C. c. cyanomelana* のシノニムとされてオオルリの亜種は基亜種オオルリと亜種チョウセンオオルリの2亜種にまとめられた (Hartert & Steinbacher, 1934, Vaurie 1954)。Ornithological Society of Japan (2000) は亜種チョウセンオオルリ *C. c. cumatilis* について、朝鮮半島の標本と基亜種とを比較したところほとんど識別できなかったとしているが、朝鮮半島に分布するのは亜種チョウセンオオルリではなく、基亜種オオルリである (山階 1941, Dement'ev & Gladkov 1954, Vaurie 1959, Watson 1986)。

オオルリの2亜種の越冬分布は不明確にしか知られていない (Vaurie 1959, Watson 1986)。台湾では基亜種オオルリが渡来し、主に南部で少数が越冬する (山階 1937, Hachisuka & Udagawa 1951)。Cheng (1987) によれば、中国海南島では基亜種オオルリが越冬する。また、Deignan (1945) はタイ北部からまれな記録として亜種チョウセンオオルリ雄の2標本を公表している。ジャワおよびフィリピンからは冬鳥として2亜種とも記録がある (Kuroda 1933, Dickinson, *et al.* 1991)。今回の黒島からの亜種チョウセンオオルリの記録は、繁殖地から越冬地への通過途

中と考えられる。同島ではオオルリは繁殖も越冬もしていない（小倉 豪, 私信）。

なお, Vaurie (1959) は北海道から亜種チョウセンオオルリを迷鳥として記録している。この記録は, おそらくアメリカ自然史博物館の所蔵標本によるものであろうが, 標本の所在については明記されていない。この例は正確な産地等が不詳であり, 再調査の必要があるであろう。

謝 辞

鹿児島県鹿児島郡三島村黒島の調査では, 小倉 豪と桑原のぶよの両氏に調査を手伝っていただいた。また, 中国の調査は中国のバンディング・センターの協力で実施し, 同センターの楚 国忠教授と銭 法文氏にお世話になり, 今田吉孝, 小畑義之, 笹森 聡, 島田高廣, 山口恭弘の諸氏に調査を手伝っていただいた。これらの方々に深く感謝する。調査の費用の一部は, 環境庁（現 環境省）自然保護局の日本産と外国産の鳥類識別法に関する研究の委託によるものである。ここに記して深謝の意を表する。

引用文献

- Cheng, T.-h. 1987. *A Synopsis of the Avifauna of China*. Science Press, Beijing.
- Deignan, H. G. 1945. The Birdss of Northern Thailand. *U. S. National Museum Bull.* 186. Smithsonian Institute, Washington, D. C.
- Dement'ev, G. P. & Gladkov, N. A. (eds.) 1954. *Birds of the Soviet Union*, Vol. 5. Israel Program for Scientific Translations, Jerusalem. (Translated from Russian in 1970)
- Dickinson, E. C., Kennedy, R. S., & Parkes, K. C., 1991. *The Birds of the Philippines. An Annotated Check-list*. British Ornithologist's Union, Tring.
- Hachisuka, M. & Udagawa, T. 1951. Contribution to the ornithology of Formosa. Part II. *Quarterly Journal of the Taiwan Museum* 4: 1-180.
- Hartert, E. & Steinbacher, F. 1934. *Die Vögel der paläarktischen Fauna*. Verlag von R. Friedländer & Sohn, Berlin.
- Kuroda, N. 1933. *Birds of the Island of Java*, Vol. 1. Published by the Author, Tokyo.
- 羽山徳太郎 1928. 日本産新鳥類 (2). 東亜鳥學彙報 1: 419-456.
- ネチャエフ, V. A.・藤巻裕蔵 1994. 南千島鳥類目録 [国後, 択捉, 色丹, 歯舞] 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- Ornithological Society of Japan 2000. *Check-list of Japanese Birds*. 6th revised ed. OSJ, Obihiro.
- Thayer, J. E. & Bangs, O. 1909. Descriptions of new birds from Central China. *Bulletin of the Museum of Comparative Zoology* 52: 139-141.
- Vaurie, C. 1954. Systematic notes on Palearctic birds. no. 12. Muscicapinae, Hirundinidae, and Sturnidae. *American Museum Novitates* 1694: 1-18.
- Vaurie, C. 1959. *The Birds of the Palearctic Fauna, Passeriformes*. H. F. & G. Witherby Limited, London.
- Watson, G. E. 1986. Genus *Cyanoptila*. In Mayr, E. and Cottrell, G. W. (eds.) *Check-list of Birds of the World*. Vol. 11, pp. 354-355. Museum of Comparative Zoology, Cambridge, Massachusetts.
- 山階芳麿 1937. 折居彪二郎氏採集臺灣産鳥類標本に就て. 鳥 9: 373-430.
- 山階芳麿 1941. 日本の鳥類と其生態第2巻. 岩波書店, 東京.

Fig. 2. Chinese Blue-and-white Flycatchers *Cyanoptila cyanomelana cumatilis* banded on Kuroshima, Mishima-mura, Kagoshima-gun, Kagoshima Prefecture, in comparison with *C. c. cumatilis* (e) from Fengcheng, Liaoning, China and *C. c. cyanomelana* (g, h) from Yamanashi Prefecture, Honshu, Japan.

Note: a, b, c: ♂ adult, Band No. 2H-69319, banded on Kuroshima on 27 September 1997.

d, f: ♂ 1st winter, Band No. 2H-69338, banded on Kuroshima on 28 September 1997.

e: ♂ adult, banded at Fengcheng, Liaoning, China on 30 June 1999.

g: ♂ adult, banded on 17 July 1988. h: ♂ 1st winter, banded on 21 August 1996.